



empowerment

www.ipstar.com

衛星インターネットを使った被災時の通信 ～ 災害時における衛星インターネットの活用に関する調査検討会 ～

2011年6月28日

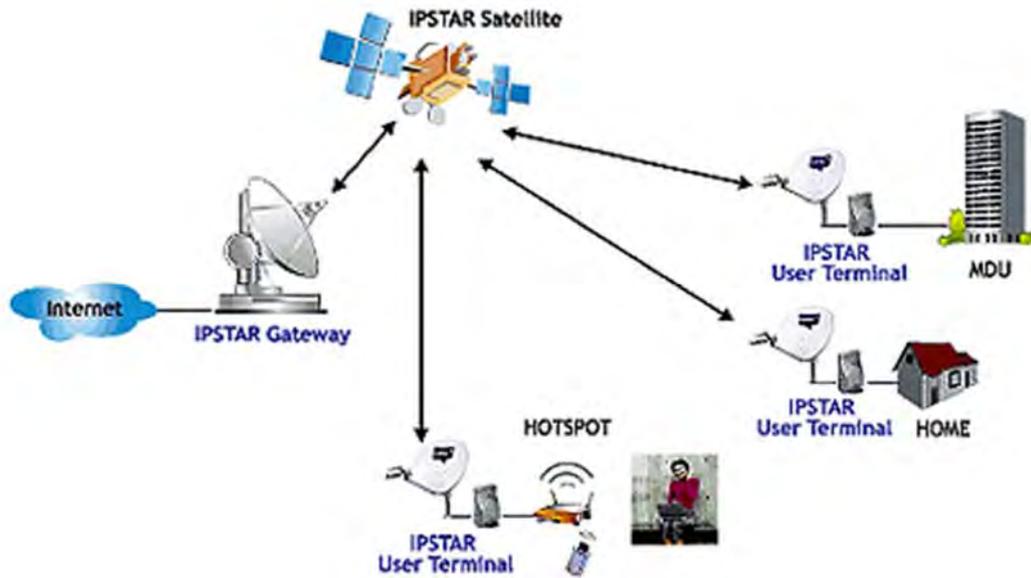
IPSTAR Co., Ltd.

日本支店長 田中 靖人

IPSTAR衛星インターネット接続サービス 概要

- 2009年4月1日に日本でのサービス開始
- 初期費用: 30万円、月額費用: 3500円～ (税別)
 - 特徴: 個人でも購入可能な価格の衛星インターネット
 - 最大通信速度: 下り4Mbps/上り2Mbps
- 主な利用用途: 地方自治体様向け通信デジタル・ディバイド対策と携帯電話基地局向け中継回線
- 2011年6月現在、日本では約2500台の販売実績
- 東日本大震災対応では約500台の衛星通信機器、500Mbps以上の通信容量(上下回線合計)が利用

衛星インターネット サービスイメージ



Thaicom Plc. & IPSTAR Co., Ltd. Proprietary & Confidential

3



被災地での利用事例(1/2)



Thaicom Plc. & IPSTAR Co., Ltd. Proprietary & Confidential

4



被災地での利用事例(2/2)



Thaicom Plc. & IPSTAR Co., Ltd. Proprietary & Confidential

5



今回の被災地対応での経験

- 震災発生後すぐの、一般の住民の方の通信手段としては、携帯電話に大きく依存
- 非常時の通信には、まずはデータより音声
 - フェムトセル、IP電話、スカイプが大活躍
- 重要拠点では衛星通信機器設置後、一週間くらい経つと、通信事業者様のご尽力で地上系通信が復旧
- 固定衛星通信機器は電源がないと機能しない
- 震災発生後の設置では、衛星通信機器の設置自体より、設置場所責任者との各種調整の方が時間がかかった



Thaicom Plc. & IPSTAR Co., Ltd. Proprietary & Confidential

6



今後の対策とご提案

- どんな場所でも携帯電話が繋がるようにしておくことが重要 (理想は複数事業者、無線基地局も)
- 災害時通信の事前準備では、直後対応は音声、その後の復旧活動ではデータ通信の利用を想定
- 非常用通信機器に可搬性を持たせることは有用
- 非常時用通信機器は必ず発電機とセットで用意
- 非常時用の通信機器を常設しない場合は、運用方法を予め策定 (例: 子供向けアクセス制限等)